

認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案（その2）

——「メタファー」の導入——

福森雅史

Resumen

En este tratado observo como comprendemos el mundo externo y como sistematizamos los varios conceptos por arrojar luz sobre la *'metáfora'* que es una de las actividades cognitivas. También observo que comprendemos los más indistintos basando con los más distintos a través de la *'metáfora'*. Además, sugiero no sólo que podemos poner fin a la manera de estudiar / enseñar por la memorización mecánica sino que también podemos estimular a los estudiantes el pensamiento con su propia iniciativa a través de la manera de estudiar / enseñar aprovechando la *'metáfora'*, especialmente *'metáfora EL TIEMPO ES DINERO'*¹⁾.

Palabras claves : メタファー (metáfora), 認知言語学 (lingüística cognitiva),
スペイン語 (español), 語彙 (vocabulario), 概念 (concepto)

1. はじめに

前稿「認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案（その1）——「投影」の導入——」では、人間の身体部位表現を中心に、姿・形が外界の対象物を把握するために利用される「投影 (proyección)」活動 (e.g. boca / cuello / vientre / culo de botella (瓶の口／首／腹／尻 (→底)) を活用することにより、効果的な学習・指導を行う上での語彙の体系化を図った。このような観点から見れば、身体の「形状」ばかりかその「機能性」に基づいた *'brazo de grúa'* (クレーンの腕 (機能：物を持ち上げる)) や「部分と全体」の関係に着目した *'cabeza de ajos'* (ニンニクの頭→ニンニクの玉) および *'un diente de ajo'* (ニンニクの歯→ニンニク1かけ) といった投影現象が観察されるのも何ら不思議なことではない。このように、「投影 (proyección)」活動とは母語話者が自身の経験を基に語の「概念」を如何にして習得しているのかというメカニズムの一つであり、これを活用することで、スペイン語学習者が自身の生身の肉体や知覚器官を通して繰り返し得た「日常経験」に即した新しい学習指導内容の一端が提示できたのではないかと考えられる。

しかしながら、「スペイン語学習者が自身の生身の肉体や知覚器官を通して繰り返し得た『日常経験』に即した新しい学習指導」に反映させる得る手段は「投影 (proyección)」活動だけで

はない。むしろ、それ以上に重要だと言えるものがある。それこそが「メタファー (metáfora)」である。

そこで、以下では、まず「メタファー (metáfora)」とは何なのか、我々にとってどのように重要なのかを説明し、ひいては第二言語の具体的な学習指導に反映させ得る手段の一つとして、どのように「メタファー (metáfora)」を導入すればよいのか、その学習指導内容の一端を提示する。

2. 「メタファー (metáfora)」の構造

従来、「メタファー (metáfora)」は伝統的哲学及び文学における詩的空想力が生み出す修辭的な文飾の技巧 (eg. la primavera de la vida (人生の春) / La amapola es sangre de la tierra. (ケシの花は大地の血である) / El silencio es oro. (沈黙は金) etc.) として見なされてきた (Cf. Lakoff and Johnson (1980: 3-6), (1999: 3-8))。しかしながら、ここで言うメタファーとはそのような言葉の綾を指すのではない。それどころか、下記 (1) に見られるように、我々の概念体系の大部分がメタファーによって成り立っており、日常生活のあらゆる営みの根本を成すものだと言える。

- (1) Primarily on the basis of linguistic evidence, we have found that most of our ordinary conceptual system is metaphorical in nature. And we have found a way to begin to identify in detail just what the metaphors are that structure how we perceive, how we think, and what we do.

(まず、我々筆者は、言語上の根拠に基づいて、我々が日常用いている概念体系が本質的にメタファーによって成り立っていることに気付いた。そして、我々がどのように知覚し、どのように考え、何をするかという構造を与えているメタファーが一体何であるかを詳細に解き明かし始める方法がわかったのだ。)

— Lakoff and Johnson (1980: 4) (日本語訳筆者)

たとえば、次の (2) の表現に注目する。

- (2) *Gasté dos horas en el trabajo.*

(私はその仕事に2時間を費やした)

上記 (2) は我々が普段、ごく当たり前用いている言語表現の一つであり、至って自然な文ではあるが、ここに「時 (tiempo)」に対する我々の或る捉え方が隠されていると言える。

上記 (2) に用いられている動詞 *gastar* は *dos horas* (2時間) という「時」をその対象としているが、本来は、下記 (3) に見られるように「お金 (dinero)」に対して使われる語である。

(3) gastar. (Del lat. *vastāre*, *devastar*). tr. Emplear *el dinero* en algo.

(或るものにお金を使う)

— *DRAE* (s.v. *gastar*, *tr.*) (イタリック・日本語訳・下線筆者)

つまり、上出 (2) の文が表す事象の背後には、以下 (4) に挙げる「お金」という具象的指示物に関する日々の経験が存在していると言える。

(4) *Gasté dos millones yenes en el trabajo.*

(私はその仕事に 200 万円を費やした)

このように、我々は「時」という抽象的指示物を「お金」という具象的指示物に見立てて表現している。なぜなら、次の (5) の記述にも見られるように、我々の概念体系の根本を成すメタファーは、自身にとって最も身近な存在である肉体的なものを基盤にして非肉体的なものを捉え、より明確な輪郭を持つものを基盤にしてより不明確な輪郭を持つものを認識するための比喩のフィルターとして機能しているからである。

(5) Perhaps the most important thing to stress about grounding is the distinction between an experience and the way we conceptualize it. We are not claiming that physical experience is in any way more basic than other kinds of experience, whether emotional, mental, cultural, or whatever. All of these experiences may be just as basic as physical experiences. Rather, what we are claiming about grounding is that we typically conceptualize the nonphysical in terms of the physical – that is, we conceptualize the less clearly delineated in terms of the more clearly delineated.

(概念基盤の形成について強調すべき最も重要なことは、おそらく、経験と、経験の概念化の仕方を明確に区別しておくことであろう。我々はここで肉体上の経験が、感情的な経験であれ、知的な経験であれ、文化的な経験であれ、その他の種類の経験よりもいかなる点においてもより基本的なものだと主張しているわけではない。肉体上の経験と同様に、それらの経験も全て同じように基本的な経験と言ってよいだろう。むしろ、我々筆者が概念基盤の形成について主張したいことは、我々は常に肉体的なものを基盤にして非肉体的なものを概念化しているということである。すなわち、より明確な輪郭を持つものの観点から、より不明確な輪郭を持つものを概念化しているということである。)

— Lakoff and Johnson (1980: 59) (下線・日本語訳筆者)

つまり、上出 (2) の言語表現には、次の (6) のメタファーを通した認識が存在しているのである。

(6) **EL TIEMPO ES DINERO**
(時は金なり)

このメタファーに基づけば, *perder* (無駄にする) であろうと *invertir* (投資する) であろうと, また *ahorrar* (節約する) であろうと *costar* (費用がかかる) であろうと *ganar* (稼ぐ) であろうと, 本来「お金」に対して使われる語は「時」に対しても用いられなければ論理に合わない。事実, 以下 (7a-e) がその実例となる。

(7) a. *Perdí* mucho $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$ en esa empresa.

(私はその事業で多くの $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ を無駄にした)

b. *He invertido* muchos $\left\{ \begin{array}{l} \text{fondos} \\ \text{años} \end{array} \right\}$ en la planificación urbana.

(私はその都市計画に多くの $\left\{ \begin{array}{l} \text{資金} \\ \text{年月} \end{array} \right\}$ を投資した)

c. Esta máquina te *ahorrará* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{hora} \end{array} \right\}$.

(この機械装置を使えばあなたは $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ を節約できるでしょう)

d. Me *costó* $\left\{ \begin{array}{l} \text{diez mil yenes} \\ \text{una hora} \end{array} \right\}$ llegar al aeropuerto.

(私は空港に着くのに $\left\{ \begin{array}{l} \text{1万円} \\ \text{1時間} \end{array} \right\}$ かかった)

e. José intentó *ganar* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$.

(ホセは $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ を稼ぐつもりだった)

また, 下記 (8) に見られるように, 我々の文化では「時」は様々な形で「お金」に換算して用いられているが, それは我々の概念体系が上出 (6) の「時は金なり」メタファー (*metáfora EL TIEMPO ES DINERO*) を通して構造を与えられたからに他ならない。

(8) Because of the way that the concept of work has developed in modern Western culture, where work is typically associated with the time it takes and time is precisely quantified, it has become customary to pay people by the hour, week, or year. In our culture TIME IS

MONEY in many ways: telephone message units, hourly wages, hotel room rates, yearly budgets, interest on loans, and paying your debt to society by “serving time”.

（現代の西洋文化では仕事は概してそれに要する時と関連づけられており、また時は正確に数量化されているが、そうした文化の中で仕事という概念が発達してきたために、時給や週給、または年給という形で人々に支払われることが慣習になっている。我々の文化ではさまざまな点で「時は金なり」である。たとえば、電話の通話単位、時間給、ホテルの宿泊料金、年経費、ローンの利子、そして「刑期を務める」ことによって社会に借りを返すことなどが挙げられる。）

— Lakoff and Johnson (1980: 8) (下線・日本語訳筆者)

しかしながら、ここで次の (9) のような疑問が生じる。

- (9) 確かに、目に見えず、手にも触れることのできない抽象的指示物である「時」というものを理解するために、目に見え、手にも触れることのできる具象的指示物である「お金」というものを利用していると言えるが、それでは何故「お金」が選ばれたのか？ 他のものではダメなのか？

結論から言えば、「時」を理解するために「お金」が選ばれたのには、やはり、そこには何らかの共通項が存在するからだと考えられる。その共通項とは、我々の「お金」や「時」に対する「貴重で限りある資源」という認識である。以下 (10a-d) の表現にその認識の一端が見られる。

(10) a. Estoy *terminando con mi* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$.

(私は $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ が無くなってきた)

b. No me *sobra* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$, sino que me *falta*.

(私は $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ が余っているのではなく、足りないのだ)

c. ¿*Vale la pena gastar ese* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$?

(それは $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ を費やすだけの価値があるの?)

d. Tienes que *utilizar tu* $\left\{ \begin{array}{l} \text{dinero} \\ \text{tiempo} \end{array} \right\}$ *con provecho*.

(君は $\left\{ \begin{array}{l} \text{お金} \\ \text{時間} \end{array} \right\}$ を有益に使う必要がある)

ここで気をつけねばならないことは、次の(11)の記述にも見られるように、このメタファーという概念装置はあくまで我々の身体的経験によって構造化されているため、文化が異なれば有するメタファーも異なることがあるという点である。つまり、貨幣経済ではない文化圏に身を置く人々の概念体系には「時は金なり」メタファー (metáfora EL TIEMPO ES DINERO) は存在し得ないのである。

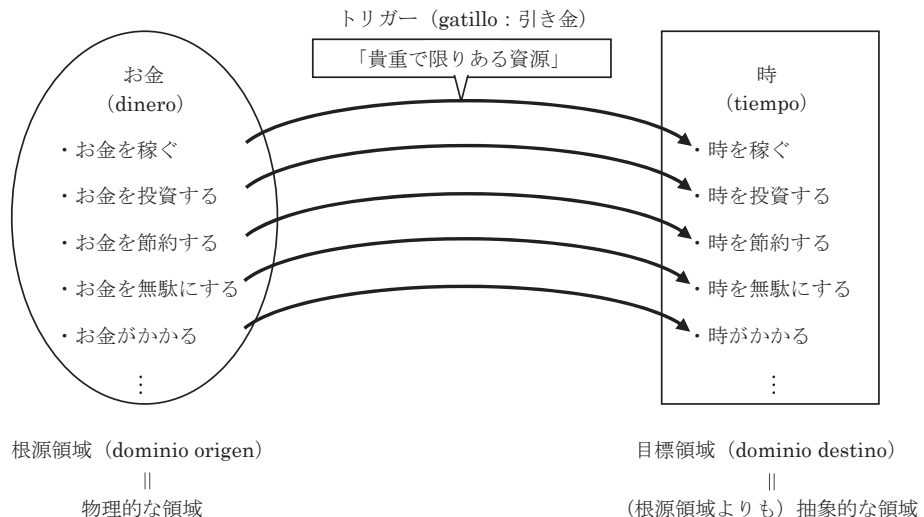
(11) These practices are relatively new in the history of the human race, and by no means do they exist in all cultures. They have arisen in modern industrialized societies and structure our basic everyday activities in a very profound way.

(こうした慣例は長い人類の歴史の中では比較的新しいことであり、全ての文化に必ずしも見られるわけではない。近代の産業社会の中に現れるようになり、我々の基本となる日常活動に意味深い方法で構造を与えているのである。)

— Lakoff and Johnson (1980: 8) (日本語訳筆者)

この「或る共通認識を通して抽象的指示物を具体的指示物に見立てて捉える」というメタファー構造は一種の写像 (proyección) 関係として捉えられる。たとえば、「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーでは、目標領域 (dominio destino) である「時」という抽象的指示物を認識するために、「お金」という具象的指示物が根源領域 (dominio origen) として利用され、「時」の指示物の一面に光が当てられていると言える。換言すれば、「貴重で限りある資源」という概念を共通項とした「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーが貨幣社会に生きる我々の概念体系に存在し、それがトリガー (gatillo : 引き金) となって具体的な根源領域からそれよりも抽象的な目標領域に概念が転移しているのである。これを以下に(12)として図示する。

(12) 「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーのメカニズム



ここで、下記（13a-b）の表現に目を向ける。

- (13) a. El tiempo *corre* rápido.
(時は速く流れる)
b. No podemos *remontar* el tiempo.
(我々は時を遡ることができない)

ここでは動詞 *correr*（走る、流れる）および *remontar*（遡る）という語が用いられ、一転して「お金」が持つ概念は感じられない。そう感じることも至極当然で、*correr* が主体とするものおよび *remontar* が対象とするものは「川」であり、各々の文が表す事象の背後には、次の（14a-b）に見られる「川」という具象的指示物に関する日々の経験が存在しているのである。

- (14) a. El río *corre* rápido.
(川は速く流れる)
b. No podemos *remontar* el río.
(我々は川を遡ることができない)

このことから、上出（13a-b）の表現は「時」という抽象的指示物を「川」という具象的指示物に見立てて表現したものであることが明らかである。つまり、そこには、以下（15）のメタファーを通じた認識が存在していると言える。

- (15) **EL TIEMPO ES EL RÍO**
(時は川である)

つまり、‘El tiempo *corre* rápido.’（時は速く流れる）および ‘No podemos *remontar* el tiempo.’（我々は時を遡ることができない）と表現されるのも、「川」が持つ「切れ目なく連続して直線状に流れる」という共通認識をトリガーとすることで、「時」という抽象的指示物を捉えているのである。

ここで気をつけなければならないことは、次の（16）の記述にも見られるように、或るメタファーによって抽象的指示物の特徴となる「一側面」が照らし出される場合、それ以外の側面は「背景化」されるという点である。

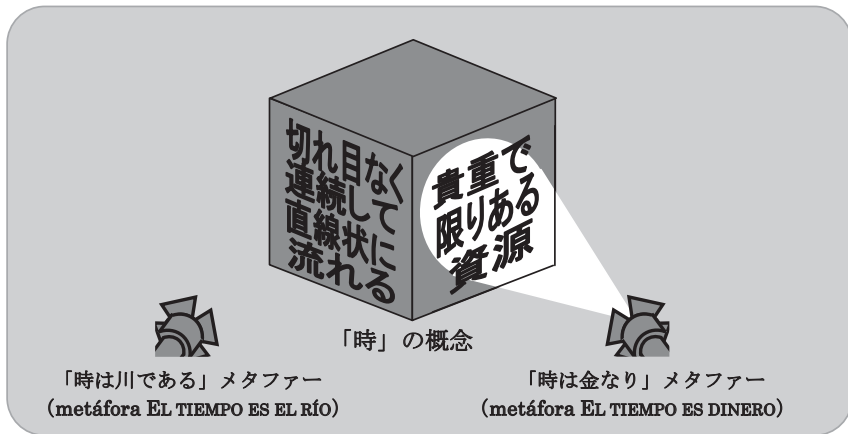
- (16) The very systematicity that allows us to comprehend one aspect of a concept in terms of another ... will necessarily hide other aspects of the concept. In allowing us to focus on one aspect of a concept ..., a metaphorical concept can keep us from focusing on other aspects of the concept that are inconsistent with that metaphor.
(或る概念の一側面を他のものによって我々に理解させるシステム性自体が、必然的にその概念の他の側面を隠してしまう。メタファーから成る概念は、或る概念の一

側面に我々の注意を集中させることで、そのメタファーとは一致しない他の側面に我々の注意が集中しないようにしてしまうのである。)

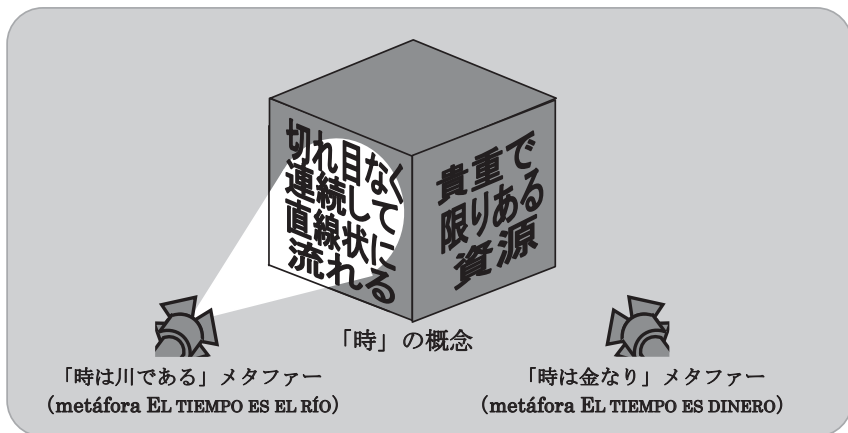
— Lakoff and Johnson (1980: 10) (日本語訳筆者)

つまり、「時」という概念を理解するために、「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」というメタファーを用いると、「貴重で限りある資源」という特徴のみが照らし出され、その他の面は背景化される (→ (17a))。他方、同じ「時」という概念を理解する場合でも、「時は川である (EL TIEMPO ES EL RÍO)」というメタファーを用いると、「切れ目なく連続して直線状に流れる」という特徴が照らし出されることになる。その時、「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーを持つ「貴重で限りある資源」という特徴などは背景化されることになる (→ (17b))²⁾。以下に (17a-b) として、各々の場合のイメージ図を示す。

(17) a.



b.



以上、「時」に対する様々な捉え方を通して「メタファー」について見てきたが、次の (18) の記述にも見られる通り、メタファーとは、修辞学的な単なる言葉の綾などではなく、我々の

概念体系を構築するのに欠くことのできないものなのである。

- (18) The most important claim we have made so far is that metaphor is not just a matter of language, that is, of mere words. We shall argue that, on the contrary, human thought processes are largely metaphorical. This is what we mean when we say that the human conceptual system is metaphorically structured and defined. Metaphors as linguistic expressions are possible precisely because there are metaphors in a person's conceptual system.

（以上我々が述べてきた最も重要な主張とは、メタファーはただ単に言語の、つまり言葉の問題ではないということである。それどころか、我々は人間の「思考過程」の大部分がメタファーによって成り立っているということを議論すべきである。人間の概念体系がメタファーによって構造を与えられ、規定されているという時、我々が意味しているのはこのことである。人間の概念体系の中にメタファーが存在しているからこそ、言語表現としてのメタファーが可能なのである。）

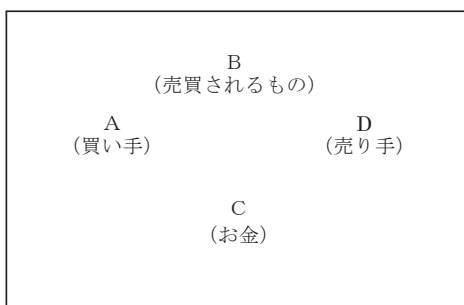
— Lakoff and Johnson (1980: 6) (下線・日本語訳筆者)

ここで「メタファー」に関する重要な点を、以下 (19a-f) にまとめる。

- (19) a. メタファーとは、単なる修辭的な文飾の技巧などではなく、我々の概念体系の大部分を構築し、日常生活のあらゆる営みの根本を成すものである。
- b. メタファーは、自身にとって最も身近な存在である肉体的なものを基盤にして非肉体的なものを捉え、より明確な輪郭を持つものを基盤にしてより不明確な輪郭を持つものを認識するための比喩のフィルターとして機能している。
- c. 或る概念がメタファーを通して別の概念に見立てることで表現される時、両者の概念間には何らかの共通項とでも言うべきトリガー (gatillo: 引き金) が存在する。
- d. メタファー構造は一種の写像 (proyección) 関係として捉えられる。或るメタファーが我々の概念体系に存在し、それがトリガー (gatillo: 引き金) となって具体的な根源領域 (dominio origen) からそれよりも抽象的な目標領域 (dominio destino) に概念が転移している。
- e. 我々は或る抽象的概念を理解するのにただ一つのメタファーしか用いないのではなく、しばしば複数のメタファーを用いて、その抽象的概念の様々な側面に光を当てることで、それを体系化している。
- f. 或る抽象的概念を理解するためにメタファーを用いると、その抽象的概念の特徴となる「一側面」が照らし出され、それ以外の側面は「背景化」される。

このような「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」という概念メタファーを活用すれば、正しい語用を習得させる上で、最小限の記憶で最大限の効果を発揮するような語彙学習・指導を行なうことが可能となる。その一端を以下に観察する。

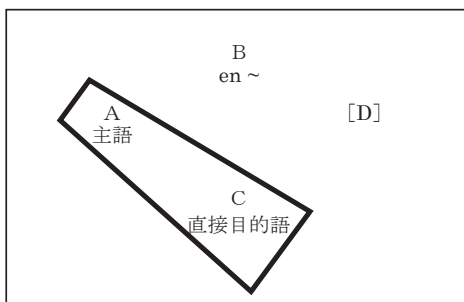
(5) 「商行為」のフレーム (marco)



— cf. Ungerer and Schmid (2006: 207-212)

この時、上記 (3) - (4) の視点の違いは、各々以下 (6) - (7) のように図示することができる（なお、太実線で囲まれた部分は焦点化されていることを表す）。

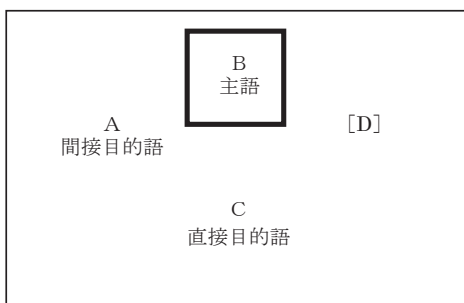
(6) 「商行為」のフレーム (marco) における動詞 *gastar* (費やす) が採る視点



[※ D (売り手) は背景化。したがって、言語化されない。]

— cf. Ungerer and Schmid (2006: 207-212)

(7) 「商行為」のフレーム (marco) における動詞 *costar* (費用を要する) が採る視点



[※ D (売り手) は背景化。したがって、言語化されない。]

— cf. Ungerer and Schmid (2006: 207-212)

つまり、*gastar* は [買い手] と [お金] に焦点が当たっているのに対し、*costar* は [売買されるもの] にのみ焦点が当たっているという点で両者は異なっていると言える。

また、下記 (8) - (9) に見られるように、

- (8) **GASTAR**, del lat. VASTARE 'devastar, arruinar', pronundiado *WASTARE en la baja época por influjo del germ. occid. WÓSTAN (a. alem. ant. *wuostan*) o WÓSTJAN (alem. *wüsten*) (GASTAR, ラテン語 VASTARE (荒廃させる, 被害を与える) から。西ゲルマン語 *WASTARE (古高地ドイツ語 *wuostan*) または WÓSTJAN (ドイツ語 *wüsten*) の影響によって後期には *WASTARE と発音された。)

— *Corominas* (s.v. GASTAR) (下線・日本語訳筆者)

- (9) **waste** n. 1 《?a1200》荒地。 2 《c1300》浪費。 3 《1414》略奪, 横領; 荒らされた土地 [もの]。 4 《c1430》くず, 廃 (棄) 物。 ◆ ME *waste* = ONF *wast* (*e*) = OF *g* (*u*) *ast* (*e*) < *g* (*u*) *ast* (adj.) ∞ OE *wēsten* wilderness < *wēste* (adj.) : cf. **VAST**.
— adj. 1 《c1300》未開墾の; 不毛の。 † 2 《c1384 Wycl. Bible (I)》 - 《1618》余分な。 † 3 《1574》 - 《1772》未使用の, 白紙の。 cf. Shak. *Son* 77.10. ◆ ME *wast, waste* = ONF *wast* = OF *g* (*u*) *ast* < L *vāstum* < IE **eu-* lacking, empty ∞ OE *wēste* deserted (cf. G *wüst*).
— v. 1 《?a1200 Layamon》荒廃させる, 消耗させる。 2 《1340》浪費する。 ◆ ME *waste* (*n*) = ONF *waster* = OF *g* (*u*) *aster* (F *gâter* to spoil) < L *vāstāre* to lay waste < *vāstus* ∞ OE *wēstan* to lay waste < *wēste* (adj.). ◇ L *v-* /*w-* は類義の関連語 Gmc **wostijan* (OHG *wuostan*) の影響もあって VL **w-* となり, OF その他のロマンス語では規則的に *g* (*u*)- となった。

— 『英語語源辞典』 (s.v. waste) (下線筆者)

gastar の語根 *ga-* は印欧祖語における 'lacking (欠けている)', 'empty (空 (から) の)' の意に相当する。したがって, *gastar* は次の (10) のような簡略化した形で解説される。

- (10) **gastar** : [+ en~ ~に] (お金・時) を費やす・消費する
▶ *gas-* 空 (から) の + *-ar* 動詞化語尾
◎ 語根 *gas-* は語根 *vac-* / *wac-* と同源で「空 (から) の」のイメージ。つまり, *gastar* は「財布の中を空 (から) にする → 費やす・消費する」で捉えられる。

また、我々は「下手に (*mal*)」お金を消費した (*gastar*) 場合、次例 (11) に見られるように、お金を「浪費する (*malgastar*)」と言う。

- (11) *Malgasté el dinero en tonterías.*
(私はつまらないことにお金を浪費した)

この *malgastar* は下記 (12) のような単純化した形でその捉え方を確認させることが可能となる。

(12) **malgastar** : [+ en~ ~に] (お金・時) を浪費する

▶ mal- 悪く → 下手に + **gastar** 消費する

◎ 「下手に [mal-] お金を消費する [gastar]」 のイメージ。

逆に、お金を「蓄える」には生活に不可欠なもの以外にお金を費やさず「節約する」必要がある。このような認識が言語にも反映され、動詞 **ahorrar** には「節約する」と「蓄える」という2つの意を表すことになる。以下 (13a-b) にその実例を示す。

(13) a. Jose **ahorró** dinero comprando un coche barato.

(ホセは安い車を買ってお金を節約した)

b. Jose **ahorró** dinero por un coche nuevo.

(ホセは新しい車のためにお金を蓄えた)

なお、次の (14) - (15) に見られるように、

(14) **Ahorrar**, ahorrativo, ahorría, ahorro, V. horro

(Ahorrar, ahorrativo, ahorría, ahorro は horro を見よ。)

— *Corominas* (s.v. **Ahorrar**) (下線・日本語訳筆者)

(15) **HORRO**, del ár. *hurr* 'libre, de condición libre'.

(**HORRO**, アラビア語 *hurr* (自由な, 自由の状態) から。)

— *Corominas* (s.v. **HORRO**) (日本語訳筆者)

ahorrar の原義は「自由な, 自由の状態」であることから、以下 (16) のように明記することで、理解を伴う効果的な学習・指導が期待される。

(16) **ahorrar** : 節約する, 蓄える

◎ 原義は「自由な, 自由の状態」。意味変化は以下の通り。

(自由な, 自由の状態) → (自由身分の)

↳ [自己の財産は自己の所有物となることから] → (財産を) 蓄える

↳ [生活に不可欠なもの以外にお金を費やさない必要性] → 節約する

また、我々は、下記 (17) に見られるように、更なる利益を得るために節約して蓄えたお金を「投資する (*invertir*)」することもできる。

(17) *He invertido* muchos fondos en la planificación urbana.

(私はその都市計画に多くの資金を投資した)

この *invertir* (投資する) には、次の (18) に見られるように、

(18) ① 逆転（反転）させる

② [+ en に] 投資する；[時間を] 費やす

— 『現代スペイン語辞典 (s.v. *invertir*, *tr.*)』

「逆転（反転）させる」と「投資する」という2つの意が存在するが、その多義性は下記(19)のような簡略化した形で学習・指導することが可能となる。

(19) **invertir** : ① 逆転／反転させる ② [+ en に] (お金・時) を投資する

▶ in- 接触 (= en) → 上の面 + vert- 回る, 向きを変える + -ir 動詞化語尾

◎ 意味変化は以下の通り。

(上の面を下向きに 180° 回転させる) → 逆転／反転させる

↳ [運用方法を逆転させ、貯蓄の中に入れていたお金を貯蓄から外に出すことで財産を増やす] → 投資する

以上、概して金銭を用いた「商行為」に関わる表現、及び各々の意味変化のメカニズムを鳥瞰してきた。そして、これまで論じてきた捉え方は、§1で詳述したように、「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」という比喩のフィルターを通して、目に見えず手に取って触ることもできない「時」の概念にもそっくりそのまま当てはまることになる。事実、このことは上出(3) - (4), (10), (12), (16), (19)で触れた動詞全てが「時間」を表すのに用いられることから明らかである。以下(20) - (24)にその実例を示す。

(20) *Gasté* { dos millones yenes
dos horas } en el trabajo.(私はその仕事に { 200万円
2時間 } を費やした)(21) *Malgasté* { el dinero
el tiempo } en tonterías.(私はつまらないことに { お金
時 } を浪費した)(22) *Me costó* { diez mil yenes
una hora } llegar al aeropuerto.(私は空港に着くのに { 1万円
1時間 } かかった)(23) Esta máquina te *ahorrará* { dinero
hora } .(この機械装置を使えばあなたは { お金
時間 } を節約できるでしょう)

(24) *He invertido* muchos { fondos años } en la planificación urbana.

(私はその都市計画に多くの { 資金 年月 } を投資した)

4. まとめ

本稿では、自身にとって最も身近な存在である肉体的なものを基盤にして非肉体的なものをつまみ、より明確な輪郭を持つものを基盤にしてより不明確な輪郭を持つものを認識したりする認知活動の一つ「メタファー」について観察することで、我々人間が如何にして外界世界を認識し、様々な概念を体系化しているのかを観察した。その後、「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」という概念メタファーを活用した語彙学習・指導法的一端を提示したが、ここで一つ強調しておくべきことがある。それを、次の(1)に記す。

- (1) 言葉の背後に潜む、スペイン語母語話者の認識体系を習得してさえいれば、たとえこれまで自分が見たことがない表現に出会っても、論理的な枠組みで正しい語用を想定することが可能となる。

つまり、ここでは「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーというスペイン語母語話者の認識を理解してさえいれば、本稿で観察した *gastar, malgastar, costar, ahorrar, invertir* といった動詞は勿論、本来「お金」に用いられる動詞は全て「時間」表示名詞を後続することができるのではないかと、という直観力が養われるのである。そして、このようなスペイン語母語話者の認識に自然に即したスペイン語の語彙学習・指導法を活用すれば、これまで機械的な丸暗記に依存するしか術(すべ)がなかった語彙指導に楔を打つだけでなく、学習者の主体的な思考を促すことも期待することができるのである。

最後に、これまで述べてきたことを基盤に種々の語の新しい捉え方を提示し、人間の認識体系の解明を通して活用することが如何に効果的な学習を促すかを確認することで、本稿を結ぶことにする。

注釈

- 1) (→ p. 195)

「時は金なり」という日本語表現に対応するスペイン語表現は、通常 'El tiempo es oro.' と表される。確かに、oro (金(きん))という語を用いたとしても「貴重で限りある資源」というトリガーは保持されるため、EL TIEMPO ES ORO というメタファーは成立すると考えられる。しかしながら、現代の商行為においては、oro は商品交換の媒介物としてはあまり利用されない。そのため、そこからイメージされるものも若干なりとも異なってくると考えられる。

このような理由から、本稿では敢えて 'El tiempo es oro.' という表現ではなく、現代の商行為において商品行為の媒介物として通常利用される 'dinero' (お金) という語を用いた 'El tiempo es dinero.' という

表現を用いることにする。

2) (→ p. 202)

当然のことながら、「時」という概念を理解するために用いられるメタファーは「時は金なり (EL TIEMPO ES DINERO)」と「時は川である (EL TIEMPO ES EL RÍO)」だけではない。例えば、次文 [1] が表す事象の背後には、

[1] Vamos a vernos *entre* las once y el mediodía.

(11時と正午の間で会いましょう)

以下 [2] の文に見られる「2者間に挟まれた領域／位置」という具象的指示物に関する日々の経験が存在している。

[2] Vamos a vernos *entre* Osaka y Tokyo.

(大阪と東京の間で会いましょう)

つまり、上記 [1] の表現には、「空間性」という概念をトリガーとした次の [3] のメタファーを通じた認識が存在していると言える。

[3] **EL TIEMPO ES EL ESPACIO**

(時は空間である)

なお、しばしば日本語で「時間」という表現が用いられるが、「時間」とは本来「時の流れにある2点間 (の長さ)。時の長さ。」(『広辞苑』(s.v. じ・かん【時間】)(傍点筆者)) のことであり、この表現自体に、すでに「時は空間である」(EL TIEMPO ES EL ESPACIO) メタファーが適用されていると言える。

また、次文 [4] が表す事象では、

[4] El tiempo me *curó* las heridas del corazón.

(時が私の心の傷を癒してくれた)

動詞 *curar* (癒す) が用いられおり、「領域／位置」を始め、「お金」や「川」が持つ概念は感じられない。そう感じることも至極当然で、次の [5] に見られるように、

[5] El médico me *curó* las heridas del corazón.

(その医者が私の心の傷を癒してくれた)

curar の主体は本来「薬などの治療物／医者などの治療者」であり、「薬」や「医者」などが持つ「治療性」という概念をトリガーとした以下 [6] のメタファーを通じた認識が存在しているからだと言える。

[6] **EL TIEMPO ES EL SANADOR**

(時は癒すものである)

このように、我々はしばしば複数のメタファーを用いて、或る抽象的概念の様々な側面に光を当てることで、その抽象的概念を理解し、体系化しているのである。

3) (→ p. 204)

我々の日常経験を通して大脳内に形成される「記憶の枠組み」のことをフレーム (marco) と言う。

我々は或る語に遭遇してそれを記憶したり、その記憶している語を用いたりする際、その語の言語的「意味」ばかりではなく、その語にまつわる様々な整理された認識体系 (例えば、社会的常識や百科事典的知識など) である「記憶の枠組み」も同時に、記憶の中に保持したり喚起したりすることになる。たとえば、domingo (日曜日) という語を記憶したり、それをを用いたりする場合には、我々は、通常下記 [1] - [3] のような事柄を意動的／無意識的に拘らず、記憶の中に保持したり、喚起したりしている。

[1] día (日), semana (週), mes (月), año (年) などの暦の知識。

[2] semana (週) に関する知識で、以下の a-d などが挙げられる。

a. 7日間を一つの単位として区切った期間。

b. lunes (月曜日) に始まり, martes (火曜日), miércoles (水曜日), jueves (木曜日), viernes (金曜日), sábado (土曜日) と続き, domingo (日曜日) で終わる。

c. 主に「仕事をするための日」である día entre semana [día laboral] (平日) と「休息するため

の日」である *fin de semana*（週末）とに分けられ、前者には *lunes*（月曜日）、*martes*（火曜日）、*miércoles*（水曜日）、*jueves*（木曜日）、*viernes*（金曜日）が属し、後者には *sábado*（土曜日）と *domingo*（日曜日）が属する。

d. *fin de semana*（週末）は官公庁・学校および一般企業の多くが休みになるため。また、それに合わせて公共交通機関にも週末ダイヤが設けられており、平日ダイヤよりも運行本数が少なくなっている。

[3] 「*domingo*（日曜日）は教会でミサが開かれる日である」という宗教・文化に関する知識。

それ故、我々は、次の [4] - [5] のような文を発話したり理解したりすることが容易に可能となるのである。

[4] *Pensé que llegaría a la clase con un retraso y salté de la cama. Pero me acosté en la cama otra vez porque recordé que ese día era domingo.*

（授業に遅刻すると思い飛び起きた。しかし、その日が日曜だったことを思い出したので、もう一度ベッドに横になった。）

[5] *José que es católico piadoso va a la iglesia los domingos sin falta.*

（敬虔なカトリック教徒であるホセは毎週日曜に必ず教会に行く。）

また、次の [4] - [5] の各々の記述に見られるように、

[4] *Séptimo día de la semana*, primero de la semana litúrgica.

（週の第7日、典礼週の始め）

— *DRAE* (s.v. *domingo*¹, s.m., 1) (下線・日本語訳筆者)

[5] 週的第一天。土曜の次の日。日曜日。官公庁・一般企業・学校などでは休日とする。

— 『明鏡国語辞典』(s.v. にち・よう【日曜】、〔名〕) (下線筆者)

スペイン語 *domingo* は「週の第7日」と認識されているのに対し、これに相当する日本語「日曜」は「週の第一日」と認識されている。この認識の違いも、各々の言語を用いた表現を発話したり理解したりするために欠くことのできない「記憶の枠組み」の一要素である。

4) (→ p. 204)

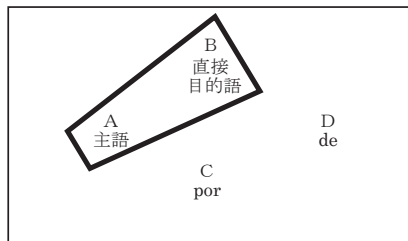
この「商行為」のフレーム (*marco*) を想定することには少なくとも以下 [1a-b] に示す2つの利点がある (cf. Ungerer and Schmid (2006: 206-207))。

[1] a. 単一のフレームで様々なパターンが説明できる。

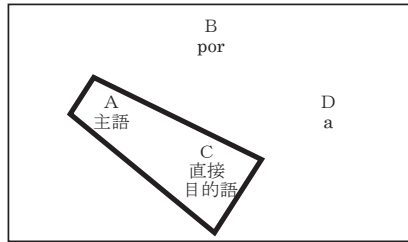
b. *comprar*（買う）、*pagar*（支払う）、*vender*（売る）といった（関連してはいるが）異なった動詞にも適用できる。

たとえば、「商行為」のフレームにおいて上記 *comprar*（買う）、*pagar*（支払う）、*vender*（売る）各々の動詞が採る視点は、次の [3] - [5] として表すことができる (cf. Ungerer and Schmid (2006: 207-212))。なお、太実線で囲まれた部分は焦点化されていることを表す。

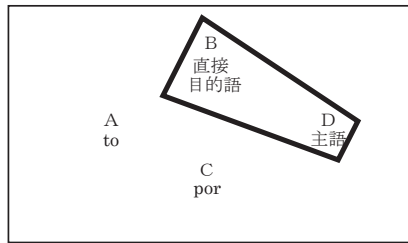
[3] 「商行為」のフレーム (*marco*) における動詞 *comprar*（買う）が採る視点



[4] 「商行為」のフレーム (marco) における動詞 pagar (支払う) が採る視点



[5] 「商行為」のフレーム (marco) における動詞 vender (売る) が採る視点



参考文献

- Bolinger, Dwight (1977) *Meaning and Form*. London, New York: Longman. (中右実 (訳) (1981) 『意味と形』 ことばあん書房.)
- Cuenca, Maria Josep & Joseph Hilferty (1999) *Introducción a la Lingüística Cognitiva*. Madrid : Ariel Lingüística.
- Fillmore, Charles J. (1977) 'Topics in lexical semantics', In: R. W. Cole (ed.) *Current issues in linguistic theory*, Bloomington, London: Indiana University Press, 76-138.
- Fillmore, Charles J. (1982) 'Frame Semantics', In The Linguistic Society of Korea (ed.) *Linguistics in the Morning Calm*, Seoul: Hanshin, pp. 111-137.
- Fillmore, Charles J. (1985) 'Frames and the semantics of understanding', *Quaderni di Semantica*, VI, 2: pp. 222-254.
- Lakoff, George & Mark Johnson (1980) *Metaphor We Live By*. Chicago : University of Chicago Press. (渡辺昇一 (訳) (1986) 『レトリックと人生』 大修館書店.) (González Marín, Carmen (trad.) (1986) *Metáforas de la Vida Cotidiana*. Madrid : Cátedra.)
- Lakoff, George & Mark Johnson (1999) *Philosophy in the Flesh : The Embodiment Mind and its Challenge to Western Thought*. New York : Basic Books.
- Real Academia Española (=RAE) (1999) *Gramática Descriptiva de La Lengua Española*, Tomo. 1-3, Madrid : Editorial Espasa Calpe.
- Ungerer, Friedrich & Hans-Jörg Schmid (2006) *An Introduction to Cognitive Linguistics*. (2nd. ed.) London: Longman. (池上嘉彦 他 (訳) (1998) 『認知言語学入門』 大修館書店.)
- 上野景福 (1955) 『語形成』 (英文法シリーズ 25) 研究社.
- 上野義和・森山智浩・福森雅史・李潤玉 (2006) 『英語教師のための効果的語彙指導法 — 認知言語学的アプローチ』 英宝社.
- 河上誓作 (編) (1996) 『認知言語学の基礎 — An Introduction to Cognitive Linguistic』 研究社.
- 森山智浩・高橋紀穂・福森雅史 他 (2010) 『英語前置詞の概念 — 認知言語学・教育学・社会学・心理学・言語文化の学際的観点から —』 (FD 語学教育改革シリーズ 1) ブイツーソリューション.

- 高橋覚二（2006）『もっと使える 基本のスペイン単語』白水社。
竹内理（編）（2000）『認知的アプローチによる外国語教育』松柏社。
福森雅史（2007）『異言語間における動作主導入前置詞の概念研究 — スペイン語・ポルトガル語・英語を通して —』（大阪大学言語社会学会博士論文シリーズ Vol. 42）大阪大学言語社会学会。
福森雅史（2011）「認知言語学的アプローチによるスペイン語語彙学習・指導に関する新提案（その1） — 「投影」の導入 —」『立命館言語文化研究』第22巻，第4号（通巻104号），pp. 197-215，立命館大学国際言語文化研究所。

【辞書・辞典】

- [*Corominas*] : Corominas, Joan & José A. Pascual (1980) *Diccionario Crítico Etimológico Castellano e Hispánico*. Madrid : Editorial Gredos.
[*DRAE*] : Real Academia Española (2001) *Diccionario de La Lengua Española*, (Vigésima segunda edición) Madrid : Editorial Espasa Calpe.
北原保雄（編）（2003-2004）『明鏡国語辞典』大修館書店。
小西友七・南出康生（編）（2002）『ジーニアス英和大辞典』大修館書店。
高垣敏博 他（編）（2007）『小学館 西和中辞典』（第2版）小学館。
寺澤芳雄（編）（1999）『英語語源辞典』研究社。
新村出（編）（1998）『広辞苑』岩波書店。
山田善郎 他（編）（2004a）『現代スペイン語辞典』（改訂版）白水社。
山田善郎 他（編）（2004b）『和西辞典』（改訂版）白水社。

「お金」に関する表現

☐ gastar

☐ gastado, da

☐ gasto

☐ malgastar

① [+en~ ~に] (お金/時) を費やす, 消費する

② 使い古す, すり減らす

▶ gas- 空(から)の + -ar (動尾)

◎ [(人) gastar A (=お金/時) en B] ((人) が B に A (=お金/時) を費やす) の形で用いられる。

◎ 語根 gas- は語根 vac-/wac- と同源で「空(から)の」のイメージ。つまり, gastar は「財布の中を空(から)にする→費やす, 消費する」で捉えられる。また, 意味変化は以下の通り。

費やす, 消費する→(使い果たす)→使い古す, すり減らす

◎ gastar は「時は金なり(EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーを通して「お金を費やす→時を費やす」という意味変化が生じた。

例) *Gasté* { dos millones yenes }
 { dos horas } en el trabajo.(私はその仕事に { 200万円 }
 { 2時間 } を費やした)

③ 使い古した, すり減った ▶ -ado, da 過去分詞化語尾→ (形尾)

④ 《主に複数形で》費用 ▶ -o (名尾)

⑤ [+en~ ~に] (お金/時) を浪費する

▶ mal- 悪く→下手に

◎ [malgastar A (=お金/時) en B] (B に A (=お金/時) を浪費する) の形で用いられる。

◎ 「下手に[mal]お金を消費する[gastar]」イメージで捉えればよい。

◎ malgastar は「時は金なり(EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーを通して「お金を浪費する→時を浪費する」という意味変化が生じた。

例) *Malgasté* { el dinero }
 { el tiempo } en tonterías.(私はつまらないことに { お金 }
 { 時 } を浪費した)

☐ **costar**

☐ **costo**

☐ **coste**

☐ **costoso, sa**

他 (お金/時/労力)を要する

◎ [B (人) *costar* A(=お金/時) (+a 人)](Bが(人)にA(=お金/時/労力)を要する)の形で用いられる。

◎ *costar* は「時は金なり(EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーを通して「お金を要する→時を要する」という意味変化が生じた。

例) Me *costó* { diez mil yenes / una hora } llegar al aeropuerto.

(私は空港に着くのに { 1万円 / 1時間 } かかった)

男 経費 ▶ -o (名尾)

男 費用 ▶ -e (名尾)

男 高価な, 高くつく ▶ -oso, osa (形尾) (多くの)

◎ 「経費[*costo*]や費用[*coste*]が多くかかる」イメージ。

☐ **invertir**

☐ **invertido, da**

☐ **inverso, sa**

☐ **inversión**

☐ **inversor, ra**

他 ① …を逆転/反転させる

② [+en~ ~に](お金/時)を投資する

▶ in- 接触(=en)→上の面 + -vert 回る, 向きを変える + -ir (動尾)

◎ 意味変化は以下の通り。

(上の面を下向きに 180°回転させる)→ 逆転/反転させる

↳ [運用方法を逆転させ, 貯蓄の中に入れていたお金を貯蓄から外に出すことで財産を増やす]→投資する

◎ *invertir* は「時は金なり(EL TIEMPO ES DINERO)」メタファーを通して「お金を投資する→時を投資する」という意味変化が生じた。

例) He *invertido* muchos { fondos / años } en la planificación urbana.

(私はその都市計画に多くの { 資金 / 年月 } を投資した)

形 逆にした, 反対にした ▶ -ido, da 過去分詞化語尾→(形尾)

形 (順序・方向が)逆の, 反対の ▶ -so, sa (形尾)

a la inversa de … …とは逆に

女 ① 反対, 逆さま ② 投資 ▶ -sión (名尾)

男 **女** 投資家 ▶ -or, ora (名尾) (~する人/もの)

